

捕獲方法の追加理由について

1. 個体数調整対象の全ての群れの捕獲方法に麻酔銃を追加

- ・令和5年度計画では、個体数調整の対象の群れ13群のうち、9群で既に麻酔銃を記載
- ・麻酔銃による捕獲は、人里への出没や、瀕死個体の捕獲等、特に迅速な対応が必要な事態での実施が想定される。
- ・令和6年度計画では、捕獲計画があるものの令和5年度は麻酔銃の記載がなかった3群（川第A群、日向群、丹沢湖群）について新たに麻酔銃を捕獲方法に追加することで、迅速な対応が必要な場合での対応力を高める。

2. H群の個体数調整の捕獲方法にくくりわなを追加（小田原市提案）

- ・H群は「管理困難な群れの除去」のため、群れ全頭の捕獲を実施
- ・令和5年度計画では、捕獲手法としてはこわな、囲いわな、麻酔銃及び銃器としていたが、12月末現在でまだ4頭が残り、農業被害や生活被害の原因となっている。
- ・令和6年度計画では、他の手法で捕獲できない場合に検討するものとして、新たにくくりわなを捕獲方法に追加する。
- ・実施にあたっては、わなの状況を常に監視し、捕獲された場合は速やかに回収するものとする。

（参考）令和5年度ニホンザル管理事業実施計画より転記

Ⅲ 令和5年度の事業実施計画

2 群れの管理

（3）群れ管理のための個体数調整、管理困難な群れの除去

ア 留意事項（18ページ）

くくりわな捕獲については、群れの除去の最終局面において、はこわな、囲いわな、銃器、麻酔銃等の手段を用いても捕獲が困難な場合に限り実施を認めるものとする。実施の際は、現場近くに作業員を常駐させる、通信機能付き自動撮影カメラを活用する等の方法により、わなの状況を監視し、捕獲個体を速やかに回収することで、捕獲個体に苦痛が生じないように配慮する。

3. 半原群及び鐘ヶ嶽群の個体数調整の捕獲方法にICTわなを追加（厚木市提案）

- ・半原群及び鐘ヶ嶽群は「適正規模とするための群れの縮小、維持」のため、個体数調整を実施
- ・令和5年度計画では、捕獲手法としてはこわな、麻酔銃及び銃器を記載
- ・令和6年度計画では、はこわなへの警戒心が強まり、捕獲が進んでいないことから、新たな捕獲方法として、新たにICTわな（ホカクン）を捕獲方法に追加する。
- ・実施にあたっては、一度に多くの個体を捕獲できる性質を踏まえ以下の点に注意する。
 - ①通信センサーカメラ等を用いた監視体制を構築し、捕獲可能な個体と放獣すべき個体を識別する
 - ②放獣すべき個体が捕獲された場合、麻酔銃等を用いて速やかに放獣する
 - ③放獣について、地域住民の理解を得た上で捕獲を実施する

- 侵入センサーによりPC・スマホへ通知、ネットワークカメラでライブ映像を見ながら遠隔捕獲。
- 動画の自動録画やクラウドへの頭数記録により情報共有や管理が容易。
- 夜間は複数センサーによる自動捕獲で捕獲従事者の負担を軽減。

企業概要

株式会社アイエスイー（三重県伊勢市）
TEL: 0596-36-3805

- ✓ ICT・IoTによるイノシシ・シカ・サルの捕獲システムを開発、全国へ展開中。
- ✓ 商品の企画・研究開発・製造から販売・フォロー・サポートまで一貫して自社でおこない、捕獲現場で起こる要望や課題を、商品のブラッシュアップにつなげています。

機器情報

機器概要

◇スマートフォン・PCからの遠隔捕獲

◇センサーによる自動捕獲

ネットワークカメラ、クラウド対応遠隔システム、侵入センサー、電子トリガー、ソーラーバッテリーシステムによるクラウドサーバ上に動画録画や捕獲情報を保存が可能。

➤ 使用目的 ◇効果的・効率的な捕獲
(箱わな、囲いわな)

➤ 対象獣種 ◇イノシシ・シカ・サル

導入実績

全国510ヶ所※以上で
稼働中!

※514ヶ所 2023年4月現在



※旧まるみえホカクンを含む

導入効果

- 選択的捕獲により以下に貢献
 - 錯誤捕獲防止
 - 加害個体の効率的な捕獲
 - ジビエ利活用



檻の状況の確認画面

活用技術



イニシャルコスト、ランニングコスト

イニシャルコスト

システム一式: 99.8万円(税別)※設置施工費別途

ランニングコスト

クラウドサーバ保守・通信費: 9,500円/月額(税別)